

## システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作についての注意事項

下記の対象機種において、システムユーティリティの操作を行う場合は、下記の注意事項に従って実施ください。注意事項に従った操作を実施されない場合、本書に記載している問題が発生する場合があります。

### 1. 対象機種

#### ラックサーバ

Express5800/R120h-1M, R120h-2M  
Express5800/R120h-1M (2nd-Gen), R120h-2M (2nd-Gen)  
Express5800/R120h-1M (3rd-Gen), R120h-2M (3rd-Gen)  
Express5800/R120h-1E, R120h-2E  
Express5800/R120h-1E (2nd-Gen), R120h-2E (2nd-Gen)  
Express5800/R120h-1E (3rd-Gen), R120h-2E (3rd-Gen)  
Express5800/R110j-1M  
Express5800/R110j-1  
Express5800/R110j-1 (2nd-Gen)

#### タワーサーバ

Express5800/T120h  
Express5800/T120h (2nd Gen)  
Express5800/T120h (3rd-Gen)

#### NAS

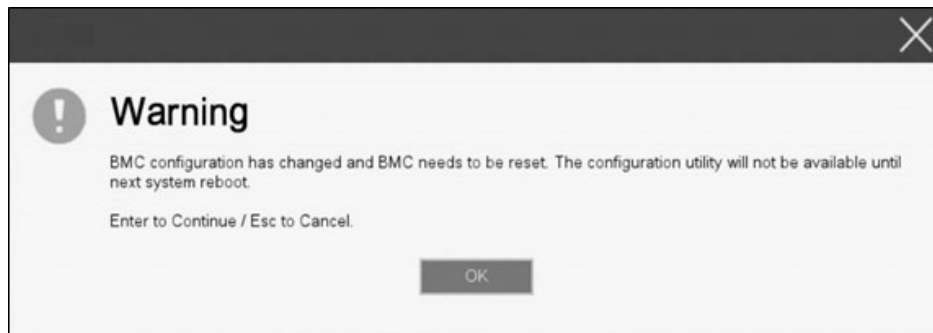
iStorage NS300Ri  
iStorage NS500Ri  
iStorage NS300Rj  
iStorage NS500Rj

### 2. 注意事項

#### ● システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作についての注意事項

システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」での操作において、以下の(1)のポップアップが表示された場合は(2)以降の手順を厳守してください。

- (1) システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」において設定の変更を行うと、  
BMC(iLO)の再起動を行うために、次の Warning(注意)ポップ アップが表示されることがあります。

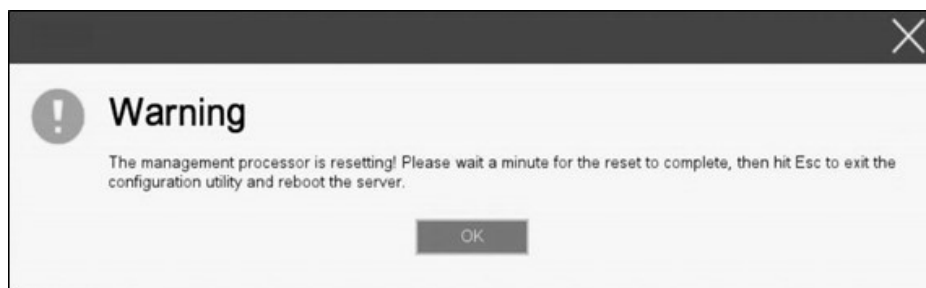


英語表示の場合



日本語表示の場合

- (2) 「OK」を押して進めます。
- (3) 次の Warning(注意) ポップ アップが表示されます。



英語表示の場合



日本語表示の場合

- (4) この Warning(注意) ポップ アップが表示されている状態にて**必ず1分以上** お待ちください。その間、キーボードやマウスなどを操作しないでください。

- (5) 1分以上経過後、サーバー前面のステータスランプが緑色で点灯していることを確認してください。

※ iLO が再起動中 : ステータスランプが緑色で点滅 (毎秒 1 回)

iLO の再起動が完了し正常動作 : ステータスランプが緑色で点灯

- (6) Warning (注意) ポップ アップが自動的に閉じない場合は、「OK」を押してください。
- (7) <ESC>キーを複数回押してシステムユーティリティの画面に戻ります。
- (8) システムユーティリティの「Reboot the System」を選択して再起動します。

### **3. 発生する可能性のある問題**

- ・「Memory Initialization Start」のメッセージで POST 停止
- ・サーバーに記録されている Serial Number、Product ID が消失

### **4. 問題が発生した場合の復旧方法**

#### **● 「Memory Initialization Start」のメッセージで POST 停止した場合の対処について**

「Memory Initialization Start」のメッセージで POST 停止した場合、システムメンテナンススイッチの SW6 によりシステム設定をデフォルト値に戻すことで復旧することができます。

詳細な手順は、各機種のメンテナンスガイド(1 章 保守)の「システム設定情報の初期化」の項をご参照ください。

#### **● Serial Number、Product ID が消失した場合の対処について**

Serial Number、Product ID が消失した場合、以下の手順にて復旧することができます。

- (1) サーバーの電源を切り、電源コードをコンセントから外します。
- (2) 30 秒以上経過したのち、電源コードをコンセントに接続します。
- (3) POWER スイッチでサーバーの電源を ON にします。
- (4) サーバーが起動し、POST 画面が表示されます。
- (5) <F9>キーを押してシステムユーティリティを起動します。

もし、システムユーティリティが起動できない状態になっている場合は、システムメンテナンススイッチの SW6 によりシステム設定をデフォルト値に戻すことで復旧することができます。

詳細な手順は、各機種のメンテナンスガイド(1 章 保守)の「システム設定情報の初期化」の項をご参照ください。再起動後、<F9>キーを押してシステムユーティリティを起動します。

- (6) システムユーティリティの「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Advanced Options > Advanced Service Options」メニューより、Serial Number と Product ID の値を確認します。

(正しい Product ID と Serial No. の確認方法については(12) 項を参照ください。)

- (7) Serial Number と Product ID の値が期待する値ではない（消失している）場合は、システムユーティリティから、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > System Default Options」を選択します。
- (8) 「Restore Default Manufacturing Settings」を選択します。
- (9) 「Yes, restore the default settings.」を選択します。
- (10) 自動的にサーバーが再起動し、POST 画面が表示されます。
- (11) <F9>キーを押してシステムユーティリティを起動します。
- (12) サーバーのスライドタグに記載されている Serial Number と Product ID をシステムユーティリティの「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Advanced Options > Advanced Service Options」メニューより、設定します。



※Express5800/R120h-2E 8x3.5 型モデルには、スライドタグが用意されていません。

サーバーのトップカバーのフロント側に貼っているラベルをご確認ください。

- (13) RBSU 設定項目をデフォルト値から変更されている場合は、その RBSU 項目の確認と再設定をします。

以上